

プロジェクト課題活動実績

課題名：集落営農法人や生産部会を核とした新たな人材の確保・育成と生産体制の強化

萩農林水産事務所農業部

チーム員：○宮西郁美、白石勝己、広田啓子、
田村貢一、山下晋平、柴崎良直

<活動事例の要旨>

集落営農法人の構成員や認定農業者、生産部会員の高齢化が進む中山間地域において、経営の柱である主食用米の収量品質の向上による経営安定化に向けた支援と生産部会や法人等が連携した新規就業者等の確保に取り組んでいる。

主食用米の生産体制強化に向け、良質米産地である阿中地域の稲作を今後担っていく次世代の水稲担当者やその候補者を対象に研修を行い、また地域の篤農家を特別講師に迎え、阿中地域で培われてきた技術を継承する機会とした。

トマト・だいこん産地の生産体制強化のため、生産部会・関係機関及び集落営農法人等が連携した担い手の確保・育成に取り組み、今年度は4名が新規就業した。

1 普及活動の課題・目標

(1) 課題の背景

阿中地域（旧福栄村、旧むつみ村、阿武町福賀地区）は、中山間地域に位置する良質米生産地域で、20の集落営農法人と認定農業者等の担い手を中心に農地が集積され、水稻を基幹とした農業経営が行われている。また、山口あぶトマトや千石台だいこん、ほうれんそう等、県内有数の園芸産地でもあり管内の農業生産の中心地域となっている。

また、酒造好適米生産からとう精・醸造を一貫して地域内で行い、「顔の見える」競争力のある日本酒のブランド化と需要拡大を図るため、萩・阿武地域の酒造会社6社と、11の集落営農法人で「萩酒米みがき協同組合」が平成29年4月に設立され、さらに、平成29年10月には法人連合体として認定された。

しかし、集落営農法人の構成員や認定農業者、生産部会員の高齢化が進み、今後も安定的な経営や生産を維持していくためには、新たな担い手の確保や定着が急務となっている。

(2) 目指すべき方向性

ア 法人等の経営安定に向けた水稻・野菜等の生産コスト削減や収量品質の向上を図る。

イ 生産部会の若返りと生産力増強向上を図るため、生産部会と農業法人が連携した担い手確保対策としくみを構築する。

ウ 新たな品目の導入や冬季の仕事の確保、法人間連携による集落営農法人等の周年雇用体制の確立と定着を支援する。

2 普及活動の内容

(1) 法人等の経営安定に向けた水稻・野菜等の生産コスト削減や収量・品質の向上

ア 主食用米の生産体制強化に向け、良質米産地である阿中地域の稲作を今後担っていく次世代の水稲担当者やその候補者を対象に、「水管理」や「幼穂形成と肥料」

等のテーマで年間3回の研修を行った。また併せて地域の篤農家を特別講師に迎え、阿中地域で培われてきた技術を継承する機会とした。

イ 需要と強く結びついた「山田錦」産地の育成を図るため、萩酒造委員会及び萩酒米生産委員会の活動を支援した。コロナ禍における管内酒蔵の「山田錦」需要量の把握と需要量に基づく生産面積調整の支援及び代替作物の提案を行った。

ウ 「山田錦」の高品質生産のため、山田錦通信の発行と併せて講習会を実施し、技術指導を行うとともに、採種ほ場の技術指導及び審査を行った。

また、コロナ禍のため規模を縮小したものの、原料米の生産から醸造まで地元で一貫して生産する日本酒の消費拡大のため、萩酒米みがき協同組合が行っている交流イベント（田植え・収穫）を支援した。



【山田錦穂肥講習会】



【田植え交流イベント】

(2) 生産部会と農業法人が連携した担い手確保のしくみの構築

ア トマト・だいこんについて、生産部会・関係機関及び集落営農法人等が連携し、新規栽培者に対しては早期経営安定化に向けた研修会等を実施するとともに、サポートチームによる現地訪問を行った。

イ トマトの新規栽培者に対して、関係機関と部会役員が連携して現地巡回研修を2度開催した。また、栽培終了後に対象者と面談を実施することで、栽培上の問題点を整理するとともに、次年度以降の指導方針について検討した。

ウ だいこん産地の強化のため、難防除病害虫対策の実証ほを設置して対策技術の徹底を行うとともに、新規就農者を中心に検討していた収穫機の導入支援を行った。



【トマト新規栽培者現地研修会】



【だいこん収穫機の導入】

(3) 新たな品目の導入や法人間連携等による集落営農法人等の周年雇用体制の確立と定着支援

ア 集落営農法人等への新規就業者及び新規就農者等の知識・技術向上や連携力強化のため、農業基礎講座を開催した。第1回目は、スマート農業に関する情報提供や現地視察を行うとともに、新規就業者・就農者が主体となった交流会の開催を支援した。第2回目は農業分野でのデジタル化研修会を行い、LINE アプリやオンライン会議ツール等を用いた技術相談や講習会について、意見交換を実施した。

イ 紫福地区の法人が行った資源点検等の結果を基に、紫福地区の法人が抱える課題を整理し、法人代表者との話し合い中で「担い手の確保・育成」を紫福地区の共通の課題と位置付けた。この話し合いの枠組みは「紫福地区法人連携協議会」へと発展し、①担い手研修生の受入と②農作業受委託調整は連携協議会が行う事業の柱となったことから、引き続き円滑な事業の実施に向けた支援を行った。

ウ 女性の視点も活かした農作業の実践・改善に向け、アシストスーツ実演会等を行い、法人女性リーダーの育成及び活動支援を行った。



【農業基礎講座】



【アシストスーツ実演会】

3 普及活動の成果

(1) 法人等の経営安定に向けた水稻・野菜等の生産コスト削減や収量・品質の向上

ア 次世代の水稻担当者やその候補者を対象とした研修会を実施することで、対象者の基礎知識の習得・向上の機会とするとともに、良質米産地である阿中地域の稲作を担っていく人材育成の重要性を集落営農法人等に意識づけすることができた。

イ コロナ禍に伴う酒蔵からの「山田錦」減産要望に応じる形で面積減による栽培をすすめたが、トビイロウンカ被害等により予想以上の減収となった。しかしながら、みがき協同組合の調整により酒蔵の需要量は達成できた。

ウ 産地目標である「単収6俵・全量1等以上・タンパク質含量6.9%以下」の達成はならなかったものの、集落営農法人の「山田錦」栽培意識の変化（地域の一体化）を醸成でき、また酒造委員会活動によるG I（地理的表示）取得がなされる見込みである。

(2) 生産部会と農業法人が連携した担い手確保のしくみの構築

ア 令和2年度は、トマトについては2名、だいこんについても2名が新規就業し、サポートチームによる現地巡回等により状況把握や経営安定支援を行った。

イ トマトの新規栽培者等を対象とした現地巡回研修を開催したことで、技術レベルの高い生産者の栽培管理を参考にするとともに、お互いの栽培について意見交換を行い切磋琢磨する機会となった。また、栽培終了後には個別面談を行うことでそれ

それぞれの栽培上の問題点や課題を整理し、次年度に向けた改善に繋がるよう指導を行った。

ウ だいこん産地の収穫作業の省力化のため、新規就農者等の若手農業者が中心となって導入を検討していた収穫機について、若手農業者からの提案により実証機として1台導入された。今後、産地全体での機械収穫体系の導入に向けて本格的に検討していくこととなった。

(3) 新たな品目の導入や法人間連携による集落営農法人等の周年雇用体制の確立と定着支援

ア 阿中地域での農業基礎講座の取組みが発展し、阿武菽地域全体での新規就農・就業者交流会が開催され、連携の範囲が広がるとともに、新規就業者による連携力強化の取組が定着してきた。

イ 8月に発足した「紫福地区法人連携協議会」は、新たに園芸作物と畜産に取り組む2法人が加わり、3月には農大生3人を研修生として受け入れるなど、担い手の確保・育成に向けた連携活動が開始された。また、農作業受委託については、(株)ふくえを核とした集落営農連合体を次年度組織化し、無人ヘリによる広域防除を行う予定となっている。

ウ 法人女性が、身近な農作業の作業軽減や効率化の検討を行うことで、女性の役割発揮拡大につながりつつある。

4 今後の普及活動に向けて

- (1) 集落営農法人等の次世代の水稻担当者を対象とした研修会を引き続き開催し、良質米産地である阿中地域の水稻栽培技術の習得及び向上を図る。
- (2) トマト・だいこん産地の生産体制強化のため、既存の生産者及び新規就業者の栽培技術の向上を支援するとともに、新たな産地体制の検討を行う。
- (3) 紫福地区法人連携協議会の研修生受入等の支援を行い、担い手確保に向けた体制づくりを行うとともに、連合体の育成支援を行う。